



平成 25 年 8 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社シスウェーブホールディングス
代表者名 代表取締役社長 宮嶋 淳
(JASDAQ・コード 6636)
問合せ先 (役職) 管理部長 (氏名) 田口 伸之介
電話 044-738-2470

(追記) インドネシア チビノンの LIPI 研究施設内圃場における スーパーソルガム実証実験の結果に関するお知らせの補足説明について

平成 25 年 8 月 13 日付「インドネシア チビノンの LIPI 研究施設内圃場におけるスーパーソルガム実証実験の結果に関するお知らせ」につきまして、補足説明を追記いたしましたのでお知らせいたします。なお、追記箇所につきましては下線を付して表記しております。

記

インドネシアでの実証実験の結果概要

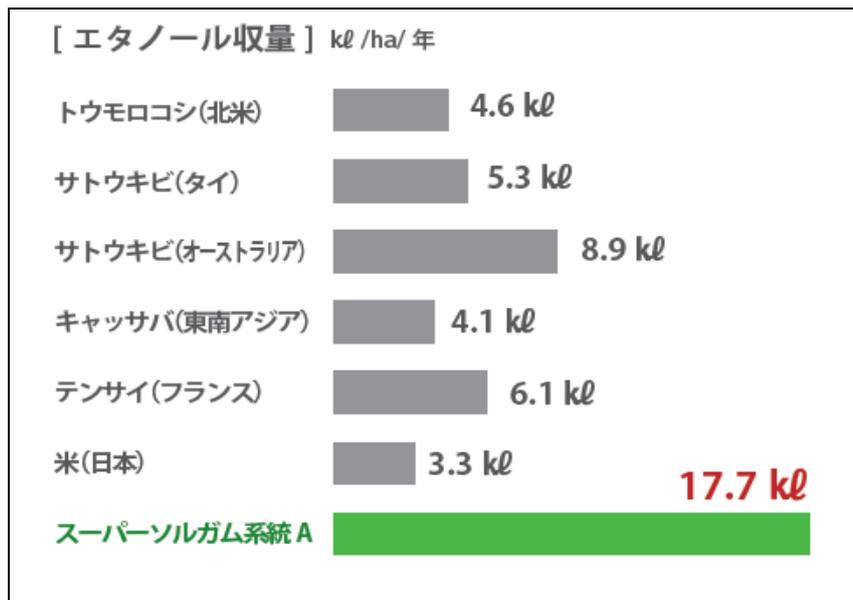
当社は平成 24 年 9 月よりインドネシア国内チビノンの LIPI 研究施設内圃場にて、1 ha 規模でスーパーソルガムの栽培・育成に関する実証実験を進めて参りました。本実証実験では、9 月～10 月にスーパーソルガムの播種を行い、下記の条件(※)にてスーパーソルガムのエタノール換算収量等を検証いたしました。

平成 25 年 8 月上旬に判明した実証実験結果では、スーパーソルガムのある系統において年 3 回の収穫における 1 ヘクタール当りのバイオエタノール換算収量は約 1 万 7,700ℓ (栽植密度: 100,250 株/ha) となりました。さとうきびを原料としたバイオエタノールの生産量は 6,000ℓ～9,000ℓ であり、今回実証されたバイオエタノール換算収量は飛躍的な成果であると言えます。

また、エタノール生産量に直結する収穫量は、様々なファクターにより成立っていますが、特に重要なファクターは「1 ヘクタール当りに何株植えられているか?」ということです。今回の実証実験では 1 ヘクタール当り約 10 万株になるように植えられておりますが、同時期に実施された栽植密度小規模試験では、1 ヘクタール当り 13 万株までは、栽植密度を増加させても一株当たり重量が減ることなく収穫量が増加しております。

これらの実験結果より、当社としては、栽植密度を 13 万株に増加することでエタノール換算収量は 22,000ℓ まで増収可能であると想定しており、当該実験以前から想定していたエタノール換算収量約 20,000ℓ～25,000ℓ も実現可能であると考えております。

当社は、今回の実験結果を基に、引き続きインドネシアにおいてスーパーソルガムの商用化に向けた大規模栽培実験を行ってまいります。栽培実験の詳細につきましては決定次第ご報告いたします。



(※)スーパーソルガム系統 A の Yield Factor : 収量的前提条件

1. 土壌条件 : 炭酸カルシウムを用いて土壌 pH6~7 へ調整
窒素 160 kg/ha/収穫 リン酸 100 kg/ha/収穫 カリ 120 kg/ha/収穫
2. 栽植密度 : 100,250 株/ha
3. 灌水 : 雨水のみ
4. 収穫回数 : 3 回/年
5. 播種時期 : 9 月~10 月

スーパーソルガム系統 A 以外の穀物の収穫データは農水省（日本）データを基にいたしました。それを基に、グラフ記載の数値は以下の前提条件で試算いたしました。

1. 年間収穫回数 : スーパーソルガム系統 A 3 回、他の作物 1 回
2. 収穫量前提(ton/ha/y) : トウモロコシ (北米) 10、サトウキビ (タイ) 60、
サトウキビ (オーストラリア) 100、キャッサバ (東南アジア) 25、
テンサイ (フランス) 60、米 (日本) 5
3. 灌漑有無 : サトウキビ (オーストラリア) は灌漑有り、他の作物は灌漑無し
4. 澱粉含有率前提 : トウモロコシ (北米) 70%、キャッサバ (東南アジア) 25%
5. 澱粉から糖への糖化効率前提 : 100%
6. 糖収率 : サトウキビ (タイ) 15%、サトウキビ (オーストラリア) 15%、
テンサイ (フランス) 17%、スーパーソルガム 14%

以上